

## 七小展覧会

青梅市立第七小学校では、1月20日(金)・21日(土)に展覧会を行いました。21日(土)には、学校公開として、3・4校時に図工の授業を公開しました。授業内容は、全学年「造形遊び」です。「造形遊び」とは、素材とかかわりながら五感を働かせ、作りたいものを自分で見つけていく活動です。1・2年生は、「色と風を感じて」と題し、1辺4m四方の大きなビニルシートに色とりどりのセロハンを思い思いに貼り付けていきました。3・4年生は、「段ボールにかこまれて」と題し、自分たちが入れるような素敵なダンボールの家を作りました。5・6年生は、「チラミッド」と題し、ちらしをまるめた棒をつなぎ合わせて、幾何学的な作品を作りました。(中嶋 太)



## おそき保育園 “クリスマス会”

おそき保育園では、12月13日(火)祖父母の会、12月17日(土)クリスマス会がホールにて行われました。

各クラス、お遊戯や劇、歌と合奏など年齢に合った演技を披露してくれました。小さいクラスは、可愛らしく、大きいクラスは自信を持ってどこか誇らしげに・

どの年齢もそれぞれの姿を見せてくれました。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、ご家族みんなに見守られながらやり切った子どもたちでした。

みんなの演技が終わると第2部として5歳児によるミュージックベル、3歳児以上によるキャンドルサービス、そしてサンタさんの登場です。みんなサンタさんからプレゼントを貰い、笑顔が溢れたクリスマス会となりました。(天野恵利子)



## 青梅市防災講演会

1月15日(日)、平成28年度青梅市防災講演会が霞共益会館で開催されました。

今回のテーマは「自助・近助・共助でつくる、災害に強いまち」。講師の山村武彦氏(防災システム研究所所長 防災・危機管理アドバイザー)は災害に関するテレビ出演も多い方で、満員の会場の誰にもわかりやすいお話をいただきました。



### 災害を予防する訓練の実施を!

通常実施している訓練は、消火訓練・避難訓練などが定番でどれも大切な訓練だが、それらの多くは「災害後対処訓練」である。欠落している「災害を予防する訓練」を重視して欲しい。

- 人には「正常性バイアス」があり、30年以内に大地震が発生することは知っていても今夜発生するとは思っていない。準備は悲観的に考え、1週間後に大地震が発生すると思って行うべき。
- 食料品の備蓄はおいしいものを半年くらいで入れ替えながら食べるローリングストック法がよい。

- 自宅の中に「安全ゾーン」の設置を。物が倒れてこない場所、一般的に強い玄関などの場所を自宅の安全ゾーンとし、揺れ始めや緊急地震速報が入ったらそこへ避難する。地震は本震までには必ず少しの時間があるので、その時間を有効に。
- 被災し避難所で暮らす中でも、避難所の運営に気づかいを持って地域分けなどの工夫ができると笑顔が絶えない避難所もある。日頃からの世帯名簿に持っている技術や配慮すべきことなどまで記載する形で作成できるような地域は強い。全員が避難するのではなく、安否確認ができれば救助に回る人が必要。

### 自助・近助・共助で安全なまちづくり

- 防災訓練で地産の野菜を安く売りいつも多くの参加者が集まる地域もある。近助の気持ち工夫で安全なまちに。

